

# らぼーる新刊案内(5月分)

受入番号	著者名	書名
11015158	島田 明宏	絆一走れ奇跡の子馬一
11015159	伊集院 静	大人の流儀 7 さよならのカ
11015160	佐藤 青南	ストレンジ・シチュエーションー行動心理捜査官・楯岡絵麻一
11015161	葉室 麟	風のかたみ
11015162	三浦 展	お客さま、そのクレームにはお応えできません！
11015163	峰守 ひろかず	こぐちさんと僕のビブリオフィイト部活動日誌(文庫)
11015164	寺地 はるな	今日のはちみつ、あしたの私
11015165	林 真理子	我らがパラダイス
11015166	平岩 弓枝	青い服の女
11015167	日花 弘子	会社でExcelを使うということ。
11015168	蓮池 陽子	うまみがギュッ！水なし煮野菜レシピ
11015169	垣谷 美雨	嫁をやめる日
11015170	窪 美澄	やめるときも、すこやかなるときも
11015171	住野 よる	か「」く「」し「」ご「」と「
11015172	伊藤 朱里	稽古とプラリネ
11015173	豊田 美加	おんな城主直虎 2
11015174	及川 早月	よすが横丁修理店(文庫)
11015175	中澤 日菜子	PTAグランパ！(文庫)
11015176	周木 律	CRISIS(文庫)
11015177	茨城新聞社	いばらきセレクション125ーみんなで選んだ茨城の宝ー
12007170	アントワネット・ポータイス	まって
12007171	オリヴァー・ジェフ	クレヨンからのおねがい！
12007172	床丸 迷人	五年霊組こわいもの係 10ー六人のこわいもの係、黒い穴にいどむ。ー(文庫)
12007173	斉藤 栄美	妖精のあんパン
12007174	たちもと みちこ	イースターハッピーふっかつの日！

# らぼーる図書室だより(5月分)

913 絆 走れ奇跡の子馬／島田明宏

東日本大震災で壊滅した福島県南相馬市のファーム。牧場主親子は、ただ1頭生き残った子馬リヤンを競走馬に育てあげ、ダービーを目指す。『netkeiba.com』連載を改稿・加筆して書籍化。同名テレビドラマの原作。

913 やめるときも、すこやかなるときも／窪美澄

忘れられるわけなんかない。僕が生まれて初めて結婚しようと思った相手のこと。大切な人の死を忘れられない男と恋の仕方を知らない女の、切なく不器用な恋の物語。

913 風のかたみ／葉室麟

九州豊後・安見藩の女医である桑山伊都子は、目付方から、上意討ちとなった佐野家一族の女たちを“生かす”よう命ぜられ……。謎解きの興趣に満ちた清冽な長編時代小説。

913 我らがパラダイス／林真理子

高級介護付きマンションで働く3人の中年女性。それぞれの家庭内で深刻な介護問題を抱える彼女達は、困窮していく我が身と、裕福な入居者達との想像を絶する格差を前に一世一代の勝負に出る！

913 か「く」「し」「ご」と／住野よる

みんなには隠している、ちょっとだけ特別なちから。そのせいで最近、君のことが気になって仕方ないんだー。クラスメイト5人の「かくしごと」が照らし出す、お互いへのもどかしい想いを描く。

913 稽古とプラリネ／伊藤朱里

女性のお稽古事取材するフリーライター南景以子、29歳。交際10年の彼氏と別れたばかりの彼女に、親友の突然の転機がもたらされ……。モヤモヤを抱える全ての女性に贈る、読んだ後、半歩踏み出せるようになる物語。

913 嫁をやめる日／垣谷美雨

ある晩、夫が市内のホテルで急死した。「出張に行く」という言葉は嘘だった。夫の隠された顔を調べはじめた夏葉子。一方、義父母や親戚等からの同情は、やがて“監視”へと変わり……。義父母、婚家からの「卒業」を描く。

913 おんな城主直虎 2／豊田美加

井伊家の一人娘である次郎法師は、男名「直虎」を名乗り城主となった。井伊谷の地と民を守り抜くため、知恵と勇気を振り絞って奮闘する直虎の驚くべき戦略とは！？NHK大河ドラマの放送台本をもとにした小説。

914 さよならの力 大人の流儀7／伊集院静

去りゆくものに微笑みを。切ない思いも悲しみも、やがては消える。季節は移ろい、そして新しい人とまた出逢う……。日々の思いをつづったエッセイ集、第7弾。

291 いばらきセレクション125 みんなで選んだ茨城の宝／茨城新聞社

2016年、茨城新聞が創刊125周年を迎えたことを記念して実施した事業「いばらきセレクション125」。そこで「茨城の宝」として選定された、自然や食、観光拠点、身近な施設、伝統工芸、近代産業、伝説などを紹介する。

E クレヨンからのおねがい！／オリヴァー・ジェファーズ

ケビンがクレヨンの箱を出すと、自分宛の手紙の束が？手紙はクレヨン達からでした。2014年ケイト・グリーンナウェイ賞候補作。